

## 令和4年度入学式 学長告辞

告辞に先立ちまして、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々、地震をはじめとする自然災害の被害者の皆様に、お見舞いを申し上げます。また、世界の平和を祈念いたします。

新入生の皆様、学部あるいは大学院へのご入学、おめでとうございます。学士入学、編入学の皆様も歓迎いたします。オンライン配信をご覧ください。保護者の皆様をはじめ、ご関係の皆様にも、心より、お祝いを申し上げます。

令和5年に、東京家政学院大学は100周年を迎えます。歴史と伝統のある本学に、新入生の皆様をお迎えし、共に過ごせることを教職員一同、喜んでおります。

皆様は、男女平等の度合いを測る国際的な「ジェンダーギャップ指数」をご存知でしょうか。毎年報道されておりますけれども、日本は159カ国中120位あたりを推移しており、一向に上昇の兆しが見えません。このような社会的背景の下、女子大学としての本学の使命は、自立して、心豊かに生き、社会に貢献する女性を輩出することであると考えています。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しの立たない現状では、制約された中での学びとなることが予想されますが、皆様にとって、本学での学びが実り多いものとなりますよう、大学として、全力を尽くすことをお約束します。

さて、本年4月1日に、民法の成年年齢が18歳に引き下げられました。

成年年齢は、明治9年以来20歳とされており、140年ぶりの変更ということです。歴史的な出来事ですね。すでに、公職選挙法の選挙権年齢が18歳となっていますので、選挙を経験した先輩の話なども聞いていらっしゃるかもしれません。

成人になると何が変わるのでしょうか。親の承諾なしにできるが増えます。例えば結婚とか、クレジットカードの契約などです。

神奈川県内の公立高校の例ですが、消費生活や契約に関わる知識は、家庭科などの授業を通して学ぶそうです。こういった社会の制度の変化による影響を生活者の立場に立って研究するのが「家政学」という分野に他なりません。個人すなわち生活者と社会、あるいは家庭と社会とをつなぐ学問と言ってもいいでしょう。また、「家政学」は、自然科学・社会科学・人文科学を基盤とする、実

践的な総合科学です。

本学の2学部5学科の中には、これからの時代に求められる多彩な学びがあります。ぜひ、幅広く学んでいただきたいと思います。

さらに、家政学という多様性を持つ学問分野を学ぶことで、多様な価値観に触れることができます。実践的カリキュラムを通して家政学を学び、多様な価値観に触れることが、皆様にとって大きなプラスであることは疑いありません。

大江スミ先生は、イギリスへの留学を経て、日本の女子教育における家政学の創始者となるわけですが、その教授方法に関して周りの理解を得られず、苦労されます。しかし、自分の価値観に従って、模索しながら、「自分の道」を進まれました。そして、本学院を設立されたのです。

私は、大江スミ先生の「信念を持って進む姿勢」と「やり遂げる力」を心から尊敬しています。

大学や大学院において一番大切なことは、良い成績を取ることはありません。「自分の進む道を見つけること」であると、私は考えています。

そのためには、皆さん、大学生活の中で、たくさんの経験をしてください。小さなことでもいいので、「挑戦」をしてください。失敗や成功をたくさん経験してください。時には、大きな失敗もあるかもしれません。でも、大丈夫です。皆さんの周りには、友人がいます。私たち、教職員も一緒に考えながら、全力でサポートします。

経験が、皆さんの成長を促してくれることでしょう。経験を通して、自分の価値観が形成されて行きます。そして、その価値観によって、自分の進む道が決まって行きます。誰でもない、自分が決める、自分の道です。

成人になった今、さらに本学院での学びを終えて社会に出た時、個人や家族、そして社会を守る役割を担うことが増えてきます。東京家政学院大学を拠点にして、たくさんの経験を積み、思う存分、学びを広げ、力をつけてください。

4年間あるいは2年間の学びの広がり、皆さんの成長を心から願い、私の告示といたします。

改めまして、本日は、ご入学おめでとうございます。

令和4年4月3日  
東京家政学院大学長 鷹野 景子